

14. 子供の内面

生活科における子供の活動には、どんな内容であろうと、その子なりの理由があり、また、思いや願いの表れは一人一人違うものです。子供一人一人の内面の世界を教師が理解することは、評価・支援をする上での重要なポイントになります。

子供の内面とは

全国小学校生活科教育研究協議会・全国大会 北海道大会において、子供の内面を受け止めながら評価・支援する視点が次のように主張された（大会基調提案より 1998年）。

①子供の内面を共感的に受け止める支援

内面理解のためには、一人一人の活動の姿をありのままに見ることや子供の声に耳を傾けることなど、受容・共感的なあたたかいまなざしやかかわりが大切である。

②かかわりのよさや成果を見とる評価

子供が意識を向けている環境を共に見据え、かかわりのよさやかかわりの成果を具体的に評価することが大切である。

③子供の内面に応じた多彩な支援

思いや願いの表れは一人一人違うことや活動のプロセスにおいて揺れや立ち止まりが伴うことを踏まえ、一人一人の子供に応える支援の多彩さをもつ必要があろう。

④かかわりのよさや成果を意味付ける支援

「…したからできたんだね」「…したんだね。…が喜ぶね」など、かかわりのよさやかかわりの成果を具体的に見とり、意味付ける言葉が子供の納得を生み、支援としての効力をもつと言える。

実践から

公園に出かけるといつもブランコの立ち乗りをしている子がいたので、声をかけてみました。「立ち乗り好きだねえ」「うん」「どうして好きなの」「だって高いところが見えるでしょ」。いつも同じことをしていると、違う遊びもしてもらいたい…と思うのは担任であれば当たり前です。そこで、「木登りしたらもっと高い景色が見えるよ」と勧めてみました。素直に試みたその子は高い景色に大喜び。それ以来、公園に出かけると公園で一番高いところに登るようになったのです。対話から内面を探って、かかわりを広げる支援をすることができました。